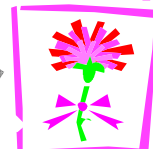


被災地と、みんなを結ぶ

2014 年 4 月 3 日 No.27

つながろう！絆・連合



ありがとう

発行：連合（総合組織局・連帯活動局）

電話 03-5295-0513 FAX 03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp

日本労働組合総連合会（連合） <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

3.11
大震災を

絶対

忘れない、風化させない、教訓をいかす！

～連合「いのちを守る絆フォーラム」開催～

大震災からの一日も早い復興に向け、連合はこの一年が正念場との思いで、政府に対して取り組みの加速化を要請していくとともに、2つの新しい取り組みを行います。

一つは東北の将来を担う子どもたちに心から笑ってもらい、全国の仲間との絆を心で感じてもらえることを目的とした「東北の子ども応援わんぱくプロジェクト」です。

もう一つは、大震災を「決して忘れない、風化させない、教訓をいかす」との決意を込め、組合員をはじめ、地域住民を災害から守ることを目的とした「いのちを守る絆フォーラム」であり、3月27日に東京YWCAホールにおいて第1回目を開催しました。満員の会場みんなで“力あわせて、心つなげて、絆・連合！”の決意を固めました。

◆被災地からの報告～「福島の子どもは可哀想・・・なんて言って欲しくない！」～

自治労南相馬市職員労働組合・大石万里子さん

（南相馬市健康企画係係長）より

〈要旨〉 被災状況が大きく違うため一人ひとりの思いが全く違います。家族の分離、自立と補償の関係など、様々な問題が心の健康に影響を及ぼしています。また障がい者、放射線の影響を恐れている人、高齢者、子育て中の人などは、今でも大きな不安をもって生活しています。以前「福島の子どもたちはあんな放射線の中にいて可哀想だ」という言葉を耳にしましたが、本当にそうでしょうか。南相馬の子どもも親も、現実を受け止め、不安はあっても前を向いて懸命に生きています。住民が健康で笑いながら生活できる地域づくりをめざし、行政だけでなく市民にも協力してもらい、互いに支え合う仕組みづくりを考えていきたいと思っています。



◆講演～「想定外を生き抜く力～釜石の防災教育に学ぶ～」～

群馬大学理工学研究院・片田敏孝教授

（広域首都圏防災研究センター長）より

〈要旨〉 防災というと、被災地をどう支援し助け合うかに議論がいきがちですが、本当の防災とは「災害ごときで人が死なない社会をつくる」ことです。3.11発生前に地域の子どもたちに聞くと「地震が起きても逃げない」と言い、理由は「立派な堤防がある」「親や祖父母が逃げないと言っているから」と答えました。大人たちは襟を正すべきです。あの日、釜石の子どもたちは一生懸命逃げました。あの



大津波から生き抜いた子どもたちから学ぶことが多くあります。それは自らの命を守る姿勢です。いつか津波は来ます。しかし大いなる自然の営みに畏敬の念を持ち、行政に委ねることなく、自らの命を守ることに主体的に(津波が来る)その日その時だけしっかり避難する…それがこの地に住まう「お作法」です。昔から伝わる「津波てんでんこ」とは「津波がくる時は家族がてんでバラバラに逃げろ」という意味であり、一見すると家族の絆を断ち切るように思われますが、実はこれこそ家族の信頼の絆です。

災害は地域に襲い来る皆の共通の敵であり、皆で結束していかなければなりません。連合は全国に広がりをもつ組織であり、地域のリーダーとして自分たちの地域をしっかり守るの思いで活動を展開していただきたい。

◆「東北の子ども応援わんぱくプロジェクト」立ち上げに向けたキックオフ宣言



漫画家やくみつるさんに、本プロジェクトの応援団長にご就任いただきました。子どもたちへ渡すバンダナにメッセージを記載してもらうとともに、決意表明をいただきました。

★やくみつる応援団長の決意表明★

本プロジェクトの趣旨を理解し、いくつか提言もしていきたい。応援団長の役を有難く引き受け、やるからにはぜひ成功させて次代につなげていく決意です。

応援メッセージはやくさんのイラスト入り



子どもたちに向けて、会場の全員に
応援メッセージを書いてもらいました。

以上

本ニュースは、全国の皆さんの声をベースに発行していきます。「こんな取り組みしているよ」「今、現地はこうなっている」などの声や写真をぜひお寄せください。お待ちしております！

連合連帯活動局・西野 TEL03-5295-0513 FAX03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp